

社会対話の実践「環境カフェ」とSDGsのかかわり Practice of social dialogue “Kankyo Café” and SDGs

多田 満*, 田中 迅**

TADA Mitsuru*, TANAKA Jin**

*国立環境研究所, **九州大学

[要約] 「環境カフェ」は、環境や環境問題に関連するテーマについて、科学者と市民それぞれの経験を訊き合うことで理解を深め、共感を促すこと（共感の場）を目的とする環境対話イベントであり、そのうち「『環境』とSDGsのかかわり」をテーマに開催した「環境カフェ」合計5回分の実践について報告した。各回でまず、SDGsについて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」前文の「誰一人取り残さない」「経済、社会及び環境の三側面を調和させるものである」などの重要な箇所を示し、参加者各人の「言葉、キーワード」を17ゴールとの関連性と「環境」「社会」「経済」との関わりから話し合った。開催後のアンケートでは、「SDGsのゴールに関する問題以外にも、さまざまな問題はひとつのゴールだけでなく、環境・経済・社会に関わっていること」「世界的な目標であるSDGsにも各人のできるようなことがあることに改めて共感した」「同じテーマでも自分が考えていたこととは異なった考えを共有できた」などの回答から、「環境カフェ」は共創型対話のひとつであると考えられた。

[キーワード] SDGs, 環境カフェ, 環境対話, 環境問題, 共創型対話

1. はじめに

2015年に「持続可能な開発のための2030アジェンダ」（以下、アジェンダ）が採択され、「フォローアップとレビュー」（7.7）には地域レベルの対話の必要が述べられている（外務省2015）。また、その51には「人びとを中心に据えたアジェンダ」について「人々の、人々による、人々のためのためアジェンダであり、そのことこそが、このアジェンダを成功に導くと信じる」とされている（SDGs市民社会ネットワーク2017）。ゆえに持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）を達成するためには、各国政府、市民社会、科学者、学界、民間セクターを含む全員が結束を図ることであり、それぞれのレベルでの対話が必要とされる。

このような対話重視の社会状況のなかで、2015年度から東京やつくばをはじめ全国各地の大学や公共のカフェで、科学者と市民の社会対話の実践「環境カフェ」を（2019年12月までに90回以上）開催している（多田2016, 2018a, b, 多田・戸祭2018, 多田2020）。

「環境カフェ」は、環境研究や環境問題に関連

するテーマについて、科学者と市民それぞれの経験を訊き合うことで理解を深め、共感を促すこと（共感の場）を目的とする対話（環境対話）イベントである（多田2018a）。ここでの環境対話は、「相互理解を基調に置く多様性の容認と尊重・活用による叡智の共創にある」共創型対話（多田2006）の基本理念につながる。

ところで、理論物理学者の湯川秀樹（1907-）が「科学が生かされるということ一人間に幸福を与えるか」（湯川・池内2015）のなかで、科学が進歩するとは「それと同時に、われわれの物の考え方が合理的になり、同時に、だんだんと包括的というか、いろいろな考え方を調和し、それを包んで、ゆとりのある物の考え方になり、それに伴って、人間界のさまざまな矛盾とか争いというようなものも、そういうところから、だんだんと解決されて行くようになり、それで初めて人間がほんとうに進歩した、ほんとうに科学というものが生かされて来たのだ」と述べているが、このような対話イベントは、「だんだんと包括的というか、いろいろな考え方を調和し、それを包んで、ゆとりのある物の考え方」

を生み出す「共感の場」(多田 2018a)となるひとつの手段であると考えられる。

「環境カフェ」は2019年には、アメリカやイギリス、ロシアの大学などでも英語により開催されたが、SDGsをテーマに取り入れて国内では、2018年に3回、2019年に7回の環境カフェ(うち2回は英語による *Kankyo Café*)が、海外では、2019年に2回の *Kankyo Café* が開催された。

本報では、これら国内の10回(表1)のうち、「『環境』とSDGsのかかわり」をテーマに「環境カフェつくば」で実践した3回と九大環境コミュニケーションサークル(代表、田中)(以下、九大サークル)の「九大環境カフェ」で実践した1回、ならびに「Relationship between “environment” and SDGs」をテーマに *Kankyo Café* で実践した1回の合計5回分の開催の概要について報告する。

2. 「環境カフェつくば」の実践

「環境カフェつくば」はつくば総合インフォメーションセンター交流サロン(以下、交流サロン)において、2016年6月25日に第4回を開催し、2018年に7回、2019年に6回、合計14回開催した。「環境カフェ」の開催手順は、多田(2018a)に示すように①「問いかけ」(ある主題に関して参加者全員に問いかける)、②「回答」(①に対してイメージされる「言葉(キーワード)」を各人で付箋紙に記入する)、③「対話」(付箋紙をもとに(類型分けして)各人の経験を訊き合う)の順におこない、適宜、主題に関する話題提供をおこなった。最後に「理解」「共感」の度合いとその内容、ならびに感想についての(無記名式)アンケートをおこなった。なお、それぞれの開催時には要点となるスライド(A4ヨコ、片面にスライド4枚で8枚印刷)を印刷した資料(1枚)を配付した。

「第7回環境カフェつくば」は、2018年6月23日(土)午後2時~3時半に開催した(表1, No.1)。はじめに参加者に「仕事や研究、社会の中で興味・関心のあること」を「問いかけ」

表1 SDGs 関連のテーマでの「環境カフェ」の開催

| No. | 開催月日 | 開催名(場所) |
|-----|----------------|--|
| 1 | 2018年 6月23日 | 第7回環境カフェつくば(つくば総合インフォメーションセンター交流サロン) |
| 2 | 6月30日 | 第10回環境カフェ本郷(東京大本郷キャンパス・赤門総合研究棟) |
| 3 | 10月14日 | 第11回環境カフェつくば(つくば総合インフォメーションセンター交流サロン) |
| 4 | 2019年 4月14日 | 6 th <i>Kankyo Café</i> (University of Tsukuba) |
| 5 | 4月17日 | 第3回九大環境カフェ(九州大伊都キャンパス) |
| 6 | 4月21日 | 第14回環境カフェつくば(つくば総合インフォメーションセンター交流サロン) |
| 7 | 5月19日 | 第15回環境カフェつくば(同上) |
| 8 | 6月16日 | 第16回環境カフェつくば(同上) |
| 9 | 6月18日 | 第4回九大環境カフェ(九州大伊都キャンパス) |
| 10 | 6月29日 | 7 th <i>Kankyo Café</i> (University of Tsukuba) |

て(表2, No.2)、参加者は「回答」(言葉、キーワード)を付箋紙(3枚以内)に書いて、それらをもとに関連するSDGsの17の目標(図1)にそれぞれあてはめ、それぞれの「言葉、キーワード」と目標の関連について訊き合った。

さらに「環境」について解説して(話題提供)、「自然」「社会」「文化」の類型(8区分)にそれぞれの「言葉、キーワード」をあてはめて、その後、訊き合うことでそれぞれの「言葉、キーワード」に関する理解を深めることができた。最後に日本の「SDGsモデル」の方向性『SDGsアクションプラン』について、「Scociety 5.0の推進」「SDGsを原動力とした地方の創生」「SDGsの担い手としての次世代や女性のエンパワーメント」の3点から概要説明をおこなった。

最後に「各ゴールはターゲットを介して環境との結びつきが示され、持続可能な開発の三側

表2 「環境カフェ」のテーマと「問いかけ」, 類型名

| No. | 開催人数 | テーマ | 「問いかけ」 | 類型名 |
|-----|------|--|---|---------------------------------|
| 1 | 7 | 「環境」とSDGsのかかわり | 仕事や研究, 社会の中で興味・関心のあること | 「自然」「社会」「文化」 |
| 2 | 7 | 「環境」とSDGsのかかわり—安全確保社会に向けて | リスク (イメージされる単語やキーワード) | 同上 |
| 3 | 9 | 「環境」とSDGsのかかわり | 社会の中で興味・関心のあること | 同上 |
| 4 | 2 | Relationship between “environment” and SDGs | What’s your interest in environmental or social issues? | 「environment」「society」「economy」 |
| 5 | 7 | 「環境」とSDGsのかかわり | 環境や社会問題で興味・関心のあること | 「環境」「社会」「経済」 |
| 6 | 7 | 「環境」とSDGsのかかわり① | 環境や社会問題で興味・関心のあること | 同上 |
| 7 | 7 | 「環境」とSDGsのかかわり②—安全確保社会に向けて | リスク (イメージされる単語やキーワード) | 「自然」「社会」「文化」 |
| 8 | 8 | 「環境」とSDGsのかかわり③—「自然共生を考える」 | 自然の恵み (イメージされる言葉・単語) | 「環境」「社会」「経済」 |
| 9 | 5 | R. カーソン『沈黙の春』を通してSDGsを考える | 環境・社会問題 (興味・関心のあるもの・こと) | 同上 |
| 10 | 4 | Thinking about SDGs through Carson’s “Silent Spring” | What’s your interest in environmental or social issues? | 「environment」「society」「economy」 |

注) No. は表1に対応、開催人数には参加人数と多田が含まれる。

面(環境, 経済, 社会)は一体不可分であるという考えが, 全体を通じて貫かれていることを示した。今回は, 大学院生と社会人7名の参加で, 初めてのSDGsに関するたいへん有意義な開催になった。

「第11回環境カフェつくば」は, 2018年10月14日(日)午後3時~4時半に開催した(表1, No.3)。まず参加者は, 「問いかけ」(社会の中で興味・関心のあること)についての「回答」(言葉, キーワード)を付箋紙(3枚程度)に書いて, その後, 世界の共通言語とされるSDGsについて環境との関わりから解説した(話題提供)。すなわち第7回と同様に「人類の羅針盤」といわれる各ゴールはターゲットを介した環境との結びつきから, 持続可能な開発(developmentを「発展」と説明)の三側面は

一体不可分であるという考えが, 全体を通じて貫かれていることを示した。

その後, 社会人5名と学生2名, 院生2名の参加で2つのグループ内で各人の「言葉, キーワード」を17のゴールとの関連性と「自然」「社会」「文化」との関わりについて訊き合った(表2, No.3)。

「第14回環境カフェつくば」は, 2019年4月21日(日)午後2時~3時半に開催した(表1, No.6)。まず, 参加者は「問いかけ」(環境や社会問題で興味・関心のあること)についての「回答」(言葉, キーワード)を付箋紙(3枚程度)に書いた(表2, No.6)。つぎにSDGsについて, 「第3回九大環境カフェ」(表1, No.5)と同様に前文の「誰一人取り残さない」「経済, 社会及び環境の三側面を調和させる



図1 17の持続可能な開発目標 (SDGs)

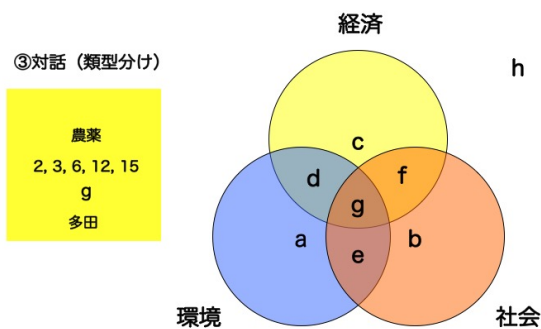


図2 「言葉、キーワード」とゴール番号を書いた付箋紙と類型分けのためのベン図

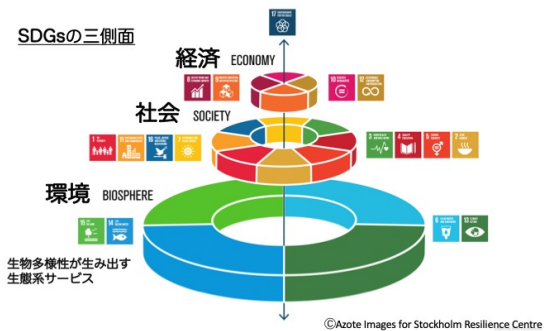


図3 SDGsの三側面のつながりを表したウェディングケーキモデル図 (Johan Rockström)

ものである」などの重要な箇所を示し、その後、各人の「言葉、キーワード」を17ゴール(図1)との関連性と「環境」「社会」「経済」との関わりからベン図(図2)による類型(8区分)分けをして訊き合った。さらに各人の言葉、キーワードの各ゴールをウェディングケーキモデル図(図3)の「環境 biosphere」「社会 society」

「経済 economic」に当てはめて比較した。今回は、高校生を含む7名による興味深い対話になった。

3. 「九大環境カフェ」の実践

「九大環境カフェ」は九大サークルの主な活動イベントとして、2017年から2019年までに「環境問題は人間問題」など6つのテーマ(多田2018a)で26回(留学生を含むのべ136人)開催している。「第3回九大環境カフェ」は、伊都キャンパス中央図書館で、2019年4月17日午後3時~4時半に開催した(表1, No.5, 表2, No.5)。まず、参加者は「問いかけ」(環境や社会問題で興味・関心のあること)についての「回答」(言葉、キーワード)を付箋紙(3枚程度)に記入した。その結果、「水不足」(2人)、「水質汚濁」(2人)、「海水の淡水化」, 「海面上昇」など水に関するもの6枚, 「地球温暖化」などエネルギー問題に関するもの4枚, 「プラスチック」(2人)などごみ問題に関するもの3枚, 「フードロス」(2人), 「森林伐採・砂漠化」(3人)などであった。

その後、「GoogleでのSDGs検索で1700万件(0.26秒)であったこと」, 「17 Goals to Transform (変革) Our World」についてふれ、前文の「このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画である」ことからSDGsの目的が、「人類の誰もが豊かで安全な暮らしを将来に渡って継続的に営めること」であると述べた(話題提供)。

さらにアジェンダ(外務省2015)で示されたSDGsについて、前文の「誰一人取り残さない」「これらの目標及びターゲットは、統合され不可分のものであり、持続可能な開発の三側面、すなわち経済、社会及び環境の三側面を調和させるものである」などの重要な箇所を示した。また、参加者がすべて学生であったことから「我々の世界を変える行動の呼びかけでは、子供たち、若人たちは、変化のための重要な主体である」こと, 「人類と地球の未来は我々の手

の中にある。そしてまた、それは未来の世代にたいまつを受け渡す今日の若い世代の手の中にもある」ことも述べた。

その後、各人の「言葉、キーワード」を17ゴール(図1)との関連性と「環境」「社会」「経済」との関わりからベン図(図1)による類型(8区分)分けをして話し合った。さらに各人の「言葉、キーワード」の各ゴールをウェディングケーキモデル図(図3)に当てはめて比較した。多くのキーワードで両区分が一致するものであったが、水に関するキーワードでは4枚中3枚に区分の違いがみられた。

開催後のアンケートでは、理解できた点は、「17の目標の一覧(図1)を見ることは多いが、ひとつひとつ掘り下げて考えると、環境に関わるゴールが多いこと」「SDGsのゴールに関する問題以外にも、さまざまな問題はひとつのゴールだけでなく、環境・経済・社会に関わっていること」など。共感できた点は、「世界的な目標であるSDGsにも各個人でできるようなことがあることに改めて共感した」(2人)、「実際の各人の体験談や理由を通して、身近な、あるいは想像しやすい「環境」問題とSDGsのゴールの関わりを考えることができた」「同じテーマでも自分が考えていたこととは異なった考えを聞き共有できた」などと述べられていた。

また感想では、「同じ似たテーマに対してもそれぞれの考え方があり、自分の考えの足りない部分を補うことができたと感じた」「自分とは同じトピックでも意見が違ったところがあり興味深かった」「対立軸のあるテーマにおける相互理解に特に有用な手法だと思います」と述べており、「環境カフェ」による環境対話は「相互理解を基調に置く多様性の容認と尊重・活用による叡智の共創にある」という基本理念の共創型対話(多田2006)のひとつであると考えられた。

4. *Kankyo Café* の実践

「環境カフェ駒場」(多田2019)や「環境カフェ本郷」(多田2018b)などで開催した同様のテーマ(内容)を英語に変えて筑波大学 Biological Science の留学生を対象に2017年10月から *Kankyo Café* の開催をおこなっている。開催時には、それぞれの国(中国やアメリカ、インド、マレーシア、バングラデシュなど)の意識や文化の違いなどが反映されて、より環境や環境問題に対する認識や理解と「共感の場」(多田2018a)になっている。

「6th *Kankyo Café*」を2019年4月14日(日)午後3時~4時半に筑波大学中央図書館ミーティングルームで開催した(表1, No.10, 表2, No.10)。まず、参加者は「問いかけ」(What's your interest in environmental or social issues?環境や社会問題で興味・関心のあること)についての「回答」(言葉、キーワード)を付箋紙(3枚程度)に書いた後、「Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development」(アジェンダ)で示されたSDGsについて、Preamble(前文)の「no one will be left behind」「They are integrated and indivisible and balance the three dimensions of sustainable development: the economic, social and environmental」「It lies also in the hands of today's younger generation who will pass the torch to future generations」などの重要な箇所を示した。

その後、「第3回九大環境カフェ」や「第14回環境カフェつくば」と同様に各人の「言葉、キーワード」を169ターゲットも調べながら17ゴール(図1)との関連性と、ウェディングケーキモデル図(図3)から話し合っただけで比較した。今回は日米の2名による興味深い対話になった。

5. おわりに

国立環境研究所では、2018年と2019年4月の一般公開「春の環境講座」において複数の研究者の対応により「環境カフェ」が開催された(多田2020)。高校生と大学生を対象に開催さ

れた2019年は「環境とSDGsのかかわり」をテーマに、研究者それぞれの環境研究にかかわる「問いかけ」について、SDGsと関連づけながら、考えたことや、感じたことなどを訊き合い、共有しながら、グループ内でじっくり話し合った。

また、2019年8月(5日間)に実施された所内のインターンシップでは、①研究者と市民の社会対話の必要性など「環境カフェ」の理論(講義)②「環境カフェ」実践のための演習(スライド作成など)③「環境カフェ」の実践(自然共生や生物多様性、SDGsなどのキーワードに関連するテーマ)の内容でおこない、最終日には「『環境』とSDGsのかかわり—『循環』を考える」をテーマにインターンシップ生による「環境カフェ」を所内で開催した(2019年8月30日)(多田2020)。

一方、「環境カフェ」をおもな活動イベントとする九大サークルでは、「環境カフェ」の手法(環境対話)により中学や高校への出前授業をおこなって生徒らの環境教育に活用したり、大学の講義やゼミ活動に導入することで環境問題に基礎について理解を促進したりと教育関係で積極的な導入が実施されている。また、2019年11月に北九州市で開催の第21回日中韓三カ国環境大臣会合(TEMM21)のユースフォーラムにおいて、環境対話はユースが個人で環境保全活動を促進する上で有効であると報告され、三カ国の大臣らに向けた政策提言に盛り込まれた(多田2020)。

アジェンダは「人間、地球及び繁栄のための行動計画」であり、その53(結語)で「それは未来の世代にたいまつを受け渡す今日の若い世代の手の中にもある」と謳われているように、高校生や大学生などの若い世代が「環境カフェ」のような対話イベントを通して、SDGsの理解を深めるとともに、対話イベントは「ほかの学生の考えを聞くことで新たな気づきが生まれる。それが予期せぬ発想を生み、次の行動を促し、世界を変える第一歩になる」と考えられ、アジェンダの基本理念にも繋がる。

謝辞

「環境カフェつくば」、 「九大環境カフェ」ならびに *Kankyo Café* に参加して下さった高校生、学生、社会人の皆さまにお礼申し上げます。

参考文献

- SDGs 市民社会ネットワーク, 2017, 基本解説 そうだったのか。SDGs—「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」から、日本の実施指針—, 106pp.
- 外務省, 2015, 我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ(仮訳) <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf> (accessed 2020-1-23)
- 多田孝志, 2006, 対話力を育てる—「共創型対話」が拓く地球時代のコミュニケーション, 教育出版, 232pp.
- 多田満, 2016, 市民の交流による社会コミュニケーション 環境カフェの開催, <http://www.nies.go.jp/biology/research/institute/cafe.html> (accessed 2020-1-23) .
- 多田満, 2018a, 社会対話の実践—「環境カフェ」を例に, 環境科学会誌, 31, 207-216.
- 多田満, 2018b, 社会対話「環境カフェ」の実践—「環境カフェ本郷」の開催を例に一, 日本環境教育学会関東支部年報, 12, 17-20.
- 多田満・戸祭森彦, 2018, 科学と文学による社会対話「環境カフェ」の実践—「『海辺』の生態学」をテーマに一, 環境教育, 28(1), 30-33.
- 多田満, 2019, 社会対話「環境カフェ」の実践—「環境カフェ駒場」の開催を例に一, 日本環境教育学会関東支部年報, 13, 39-44.
- 多田満, 2020, 社会対話「環境カフェ」—科学者と市民の相互理解と共感を目指した新たな手法, 環境儀(国立研究開発法人国立環境研究所), 76, 16pp.
- 湯川秀樹, 池内了編(2015)湯川秀樹エッセイ集 科学を生きる. 河出文庫, 227pp.